Report

ひまわりホール35周年 子どもアートフェスティバル2024 一挙振り返り!!!

10月13日・14日、ひまわりホール子どもアートフェスティバル2024を開催。「もっと子どもが主役」をモットーに、子どもが参加し体験できる2日間として企画しました。昨年はコロナ禍明けの4年ぶり再開ということもあり、センター加盟団体のみの出演で開催。今年は人形劇場ひまわりホールと愛知人形劇センターが35周年ということもあり、より幅広いパフォーマンスを紹介したい想いがあり、以前に行っていた上演団体の公募も再開しました。2日間で、プロ・アマ計26団体、のべ34ステージの人形劇、ミニコンサート、ワークショップなどが繰り広げられ、都心のオフィスビル内に子どもたちの歓声が広がりました。

損保ジャパン名古屋ビル1Fエントランスには、30年以上前にTVに出ていた「じゃじゃ丸」が登場。昔、子育てをしていた人には懐かしく、今の子どもたちは大きなじゃじゃ丸にビックリという感じ。1F以外でも17Fのプロ劇団ステージ開演前にじゃじゃ丸が乱入!! 劇団メンバーと楽しく絡み合うサプライズな場面もありました。

さらに、東西老舗プロ人形劇団の夢の競演と銘打ったステージは、東はプーク、ひとみ座、西はクラルテ、京芸、地元からはむすび座と、その名のとおり豪華な顔ぶれ。そして、今回初めての企画は「ベイビーシアター」。あかちゃんの観る力、聴く力、感じる力に働きかけ、あかちゃんと大人がともに体験するというステージになりました。一緒に来たおにいちゃん、おねえちゃんは、同じフロアで同時進行した別プログラムを楽しみ、あかちゃんと大人はベイビーシアターを楽しむというファミリー応援企画も実施。アンケートの結果も好評でした。これからも、さらに趣向を凝らした企画を考えていきます。ご期待ください。

愛知人形劇センター理事
伊藤進（人形劇団わたぐも）

みんなのリアルな声!
（アンケート抜粋）

昨年ゆめみトランクさんの人形劇の素晴らしさに感動して、今年も見に行きました。今年もとても楽しかったです。今年は音楽さんのコンサートを聞いて、音楽も良いと思いました。14日の公演が見れなくて残念です。

ゆめみトランクさんの「さんびきのこぶた危機一髪」とても楽しく見れました。途中、雷、竜巻辺りから少し長く感じられました。

子どもが3人いるので子ども料金があるとありがたかったです。

小さい頃、ひまわりフェスティバルをいつも楽しみにしていました。母親として参加するのは今年が2度目でした。5才の息子はまだ帰りたくない、次も見る! 明日も絶対来る! 来年も絶対来る! と、私と同じようにはまっていました。いつもありがとうございます! 3世代で楽しませていただいています。

舞台と観客の距離が近くて嬉しかったです。子どもが話の世界に入って人形と同じ様に体を揺らしたりして夢中になって見ていました。帰宅後もずっと劇の話しをしていました。ありがとうございました。

初めて参加しました。朝10時から15時まで6公演を見ました。子どもたち（2歳、5歳、7歳）と楽しんでいました。来年また行きたいと思います。要望：チラシにまた来たいので良かったですが、もっといろんなところ、例えば子育てセンターや児童館や幼稚園などで配布したらいいなと思いました。

赤ちゃん向けのシアターがあったのがとてもよかったです。8ヶ月の息子もたくさん笑って楽しんでくれたのでまた参加したいです。

じゃじゃ丸に会いにきました! TVで見てたぶり35年ぶり? 久しぶり~!!! つぎはびっくりちゃんとほろりも名古屋に遊びにきてね。大人ばっかりで遊びに来ちゃいましたが人形劇もすごくたのしかったです。次もまた大人だけどあそびに来たいです。

©スタジオじゃぴぼ / NHKエンタープライズ

＼上演作品＆プロフィール／

『燈り道』より

劇団野らぼう『72歳人形』

作・出演：前田斜め　演出：前田斜め・クリエイションチーム　サポートスタッフ：成田明加、水野安実、森陽菜、他

『鳥が飛んでった跡』より

『新装版 内側の時間』より

自分自身の72歳の姿を模した人形と対峙する、ひとりの男の物語を創作します。

主体と客体の関係性に重きを置いたオブジェクトシアターとしての作品を目指し、創作過程ではアドバイザーの方々と共同でクリエイションを進めていきながら「人はなぜ人形を求めるのか」「人形劇でしか表現できない魅力ってなんだろう」、そんなところまで迫っていきたいと思っています。

目標はこの作品を自分が72歳になるまで上演し続けること! どうぞ、その初演を目撃ください。（前田斜め）

PROFILE

劇団野らぼうは、長野県松本市を拠点に活動している劇団です。公演場所は主に野外。テント劇場を建てたり、野外劇としての作品を上演したりしています。これまでに大きな人形を用いた作品や、人形と役者が出演する作品を創作してP新人賞2020では賞も受賞させていただきました。作品ごとに、環境や条件、空間に合わせて創作することを大事にしながら、常識にとらわれない表現活動を行っています。

新しい人形劇創造の胎動がここに——P新人賞NEXT THE STAGE まもなく開演

「P」とはパペットの「P」&オブジェ+身体パフォーマンスの「P」です。人形劇の新たな創造の可能性を追求する企画として、また人形劇ジャンルの未来を担う新新な才能を発掘するための企画として、愛知人形劇センターが2011年度より継続開催している次世代に向けての育成事業がP新人賞です。

このP新人賞は2023年度より、舞台芸術の第一線で活躍するアドバイザーと格闘しながらブラッシュアップした作品を上演するクリエイション企画「P新人賞NEXT THE STAGE」としてリニューアルしました。今年度は8団体の応募があり、2回の審査を経て「劇団野らぼう」とゼロコの「角谷将視」の2団体・個人がTHE STAGEに挑みます。当日は終演後、昨年度上演した2団体の代表とアドバイザーを交えたクロストークも開催します。

日本の新しい人形劇創造の胎動を、ぜひお見届けください。

P新人賞NEXT2024 THE STAGE

2025年**2月15日(土)**13:00・**16日(日)**13:00
（※各回アドバイザーと上演団体とのアフタートークあり）

損保ジャパン人形劇場ひまわりホール

料金：前売一般2,200円　当日2,500円
センター会員2,000円（事前申込に限る）

お申込み先
スマホ▶QRコードを読み込む

COMING SOON

角谷将視（ゼロコ）『まるめた紙』

出演：角谷将視　作・演出：角谷将視、濱口啓介

机に向かい執筆作業をつづけている1人の男。彼は、スランプに陥っている。書くことに行き詰まり、何一つ納得のいくものが書けない。いよいよ男は、原稿用紙を使って遊び始めてしまう。紙を折り重ねていくと原稿用紙でつくられた人形、ペーパーボーイが現れた。男の心情やペーパーボーイのやりとりをコメディタッチに描いていく。これは、2024年に東京・チェコ・ニューヨークで開催された「インターナショナル・パペット・スラム」の3カ国で上演した作品をさらに改良し、発展させた台詞のない公演です。言葉の壁を越え、幅広い年齢層や国籍の方にも観劇していただけるこの作品を、ぜひ劇場でご体験ください。

PROFILE

役者として活動しながらパントマイムを学び、マイム公演やクラウンとしてイベントにも出演を重ねる。2016年に濱口啓介とフィジカルコメディデュオ「ゼロコ」を結成。老若男女・国籍問わず楽しめる作品を創作している。2019年には世界最大の芸術祭「エディンバラ・フェスティバル・フリンジ」にてアジアン・アーツ・アワード2019のベストコメディ賞を受賞。2024年に東京・チェコ・NYで開催された「インターナショナル・パペット・スラム」全公演に出演。